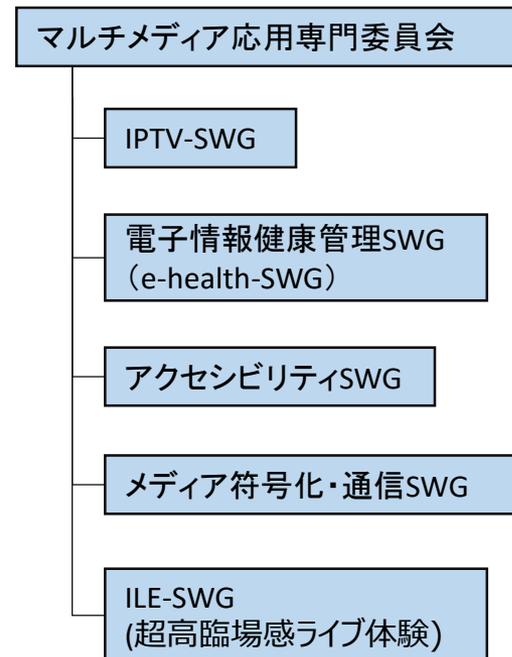


企画戦略委員	四方 清隆 (富士通)	登録委員数	131/(6グループ)25
正副委員長 リーダー・サブ	委員長：山本秀樹 (OKI)、副委員長：芹沢 昌宏 (NEC)	図解	
活動の目的・意義	ITU-T SG16で扱っているマルチメディアに関するテーマ（特にヒューマンファクター）について標準化を行う委員会で、IPTV-SWG、電子情報健康管理SWG(e-health-swg)、アクセシビリティSWG、メディア符号化・通信SWG、ILE-SWGの5つのSWGから構成される。ITU-T SG16会合の対処方針や提出寄書の審議もこの委員会で行っている。		
活動する上での課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>既存のSWGに関連するテーマは、各SWGのページに記載。</li> <li>2018年12月のITU-T TSAG会合で、SG16には、以下の2つの課題の追加が承認された。2019年3月の第4回SG16会合から以下の2つの課題が追加される。そのため関連するTTCのグループとの連携を深めていく。具体的な連携方法と内容はSG16での審議内容を見極めながら進めていく。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題 Q.5 AIによるマルチメディアアプリケーション (Artificial intelligence-enabled multimedia applications)</li> <li>課題 Q.22 分散電子台帳技術とeサービス (Distributed ledger technologies and e-services)</li> </ul>		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	各SWGのページに記載		
国内外標準化団体動向	各SWGのページに記載		
関連する専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>コネクテッドカー専門委員会：ITSなどのコネクテッドカーに関連する事項</li> <li>AI活用専門委員会：AIに関連する事項</li> <li>セキュリティ専門委員会：分散電子台帳技術に関連する事項</li> </ul>		



重点取り組み	・各SWGのページに記載			
主な活動項目	概況指標	2018年度目標（当初計画時）	2018年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	<b>17件</b>	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16会合：7月頃	<b>ITU-T SG16会合（7月） Net119の相互接続試験の場所としてTTCの 会議室を提供（2月20日に実施）</b>	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	各SWGで設定	-	
	TS/TR/SR	各SWGで設定	-	
③ ダウンストリーム	数	各SWGで設定	-	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	年度内に2回程度開催	<b>2/18に「SDGs・アクセシビリティセミナー：放 送・通信における情報アクセシビリティの向上」を 開催（84名参加）</b>	
	記事投稿、講演会	-	<b>TTCレポート 1件、ITUジャーナル 1件</b>	

重点取り組み		・各SWGのページに記載		
主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	20件程度	-	
	外部会合への 参加・連携状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITU-T SG16会合：3月、10月</li> <li>・ASTAP-31：6月</li> <li>・IPTVアクセシビリティコンソーシアムとの連携</li> <li>・HATSとの連携</li> </ul>		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	各SWGで設定	-	
	TS/TR/SR	各SWGで設定	-	
③ ダウンストリーム	数	各SWGで設定	-	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	年度内に1回開催を検討		
	記事投稿、講演会	適宜SG会合の結果報告をTTCLレポートに寄稿する		

# 中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

IPTV-SWG

1/3

企画戦略委員

四方 清隆(富士通)

登録委員数

19/13

リーダー・サブ

リーダー:斎藤 恭一(NHK)、サブリーダー:田中 清(NTT)

図解

活動の目的・意義

- 日本のIPTVサービスで採用されている方式を基にした国際標準への反映を目的として、IPTV (IP放送、映像配信、VOD) に関するITU-T SG16 関連の標準化活動を実施する。
- 国際標準との整合性を確認、確保すべく、IPTVに関わる国内外活動 (ASTAP、IPTVフォーラム、DSC、W3C等) の情報収集も行う。

活動する上での課題

- 総務省および国内仕様団体と連携・協調した国際標準化
- 国内仕様団体との整合性を重視し、国内IPTVおよびデジタルサイネージサービスを網羅する概要的勧告についてITU-Tへのアップストリーム

関連のSDGsゴール



標準化方針

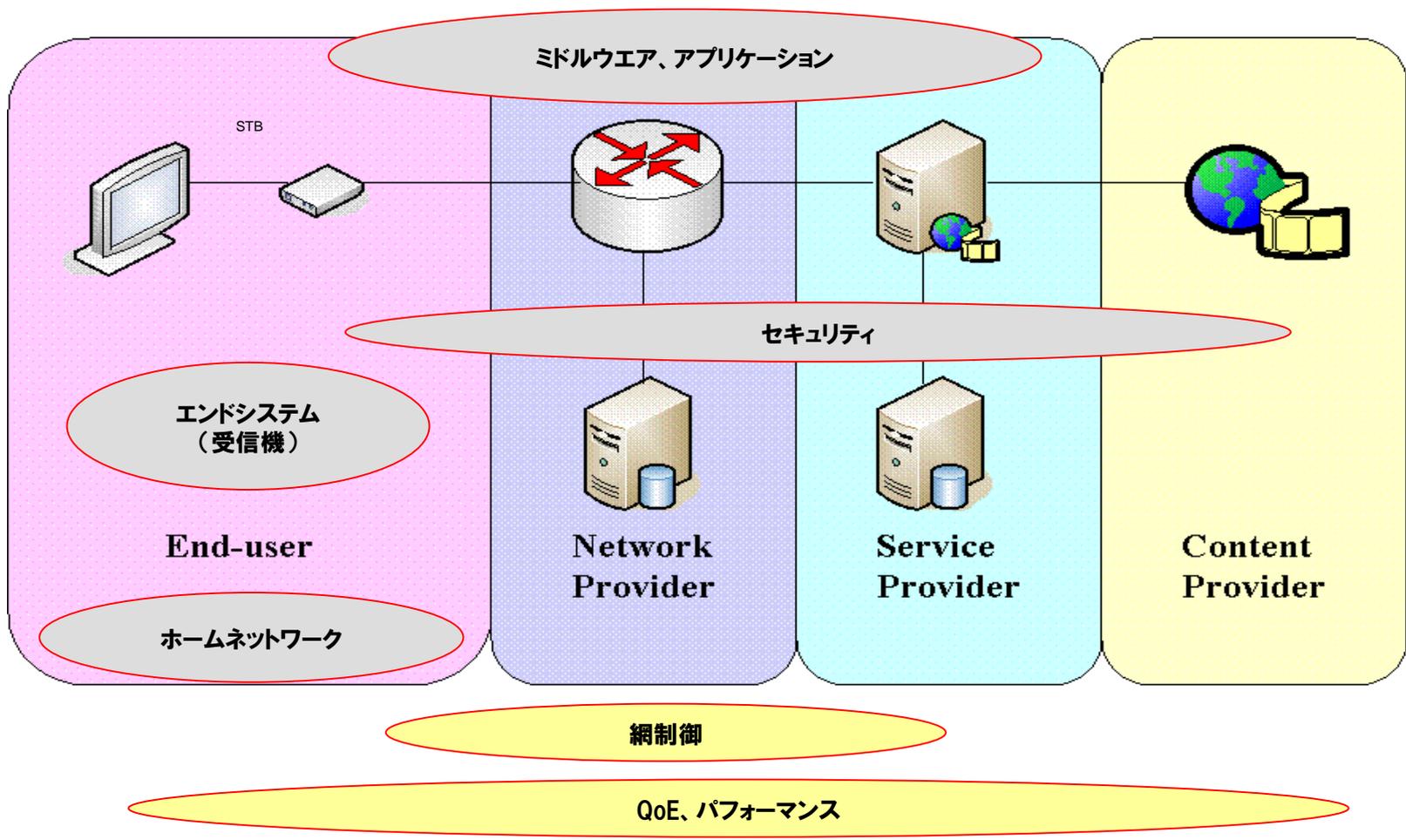
- IPTVサービスの市場の安定的成長と会員団体のそれぞれの国内外のビジネス拡大に寄与するため、国内のIPTVおよびデジタルサイネージ仕様とITU-Tを中心とした国際標準化の整合性を確保するとともに、IPTVに関連するサービスの観点からスマートTVや4K/8K等の検討を加えITU-Tの勧告体系の整備に貢献する。国内のコンセンサスの場としての活動を維持強化する。国内ビジネスの展開に役立つ「ダウンストリームすべき勧告」についての検討も更に強化する。
  1. ITU-Tにおける勧告体系の観点から、必要な勧告案に対するコンセンサスの連携強化と実効性のあるアップストリーム活動
  2. 国内既存サービスとの整合性確保と新サービス対応
  3. ビジネス展開に資するダウンストリーム

国内外標準化団体動向

- ITU-T : FG-IPTVの成果文書をベースとし、2008.1に開始したIPTV-GSI関連で100件の勧告、技術文書等が完成。
- DSCにてデジタルサイネージ標準システム相互接続ガイドライン第2版を発行 (2017.6)
- IPTVフォーラムにおいて、IPTVの4K/8K対応について規格化。
- パブリックビューイング関連の標準検討を実施するNexCDiフォーラムが設立。

次ページ参照

# IPTVアーキテクチャ



重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 会員企業のビジネスメリットのある国際標準化を推進することとし、新サービスやグローバル展開に向けたアップストリーム活動を継続する。</li> <li>• 2020に向けたデジタルサイネージの普及の観点からDSCとの連携を継続し、デジタルサイネージの相互運用に必要となる勧告を日本主導で整備する。</li> <li>• 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを進める。</li> </ul>			
主な活動項目	概況指標	2018年度目標（当初計画時）	2018年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	<b>4件</b>	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16会合：7月頃	<b>ITU-T SG16会合（7月）</b>	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	<b>0件/0件/0件</b>	
③ ダウンストリーム	数	TRもしくはTSとして1件	<b>0件</b>	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに 協力する	<b>2019年度の実施に向けて継続検討</b>	
	記事投稿、講演会			

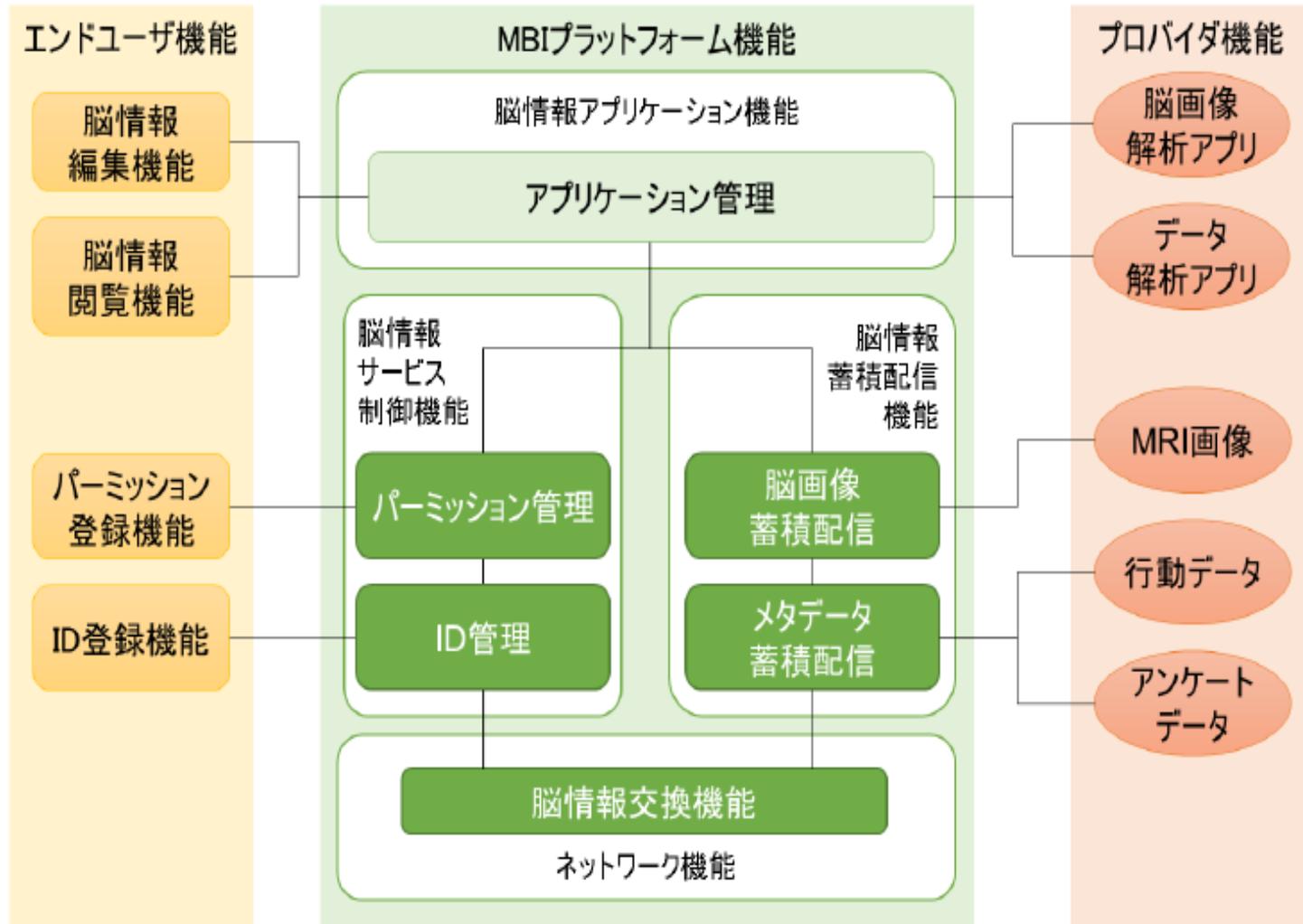
重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 会員企業のビジネスメリットのある国際標準化を推進することとし、新サービスやグローバル展開に向けたアップストリーム活動を継続する。</li> <li>• IPTVの新サービス対応、2020に向けたデジタルサイネージの普及の観点からIPTVフォーラムやDSCとの連携を継続、必要に応じて必要となる勧告を日本主導で整備する。</li> <li>• 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを進める。</li> </ul>			
主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-		
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16会合：3月、10月 ASTAP-31：6月		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数	1件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する		
	記事投稿、講演会			

- APT (Asia-Pacific Telecommunity) : アジア・太平洋地域のICT分野の標準化活動を強化し、地域として国際標準の策定に貢献することを目的として設立された共同体
- ASTAP (APT Standardization Program) : APT内の標準化機関
- IPTVフォーラム : Internet Protocolを使用した動画配信の仕様の標準化と普及を目的とした国内標準化のための一般社団法人
- DSC (一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム) : デジタルサイネージ産業の課題解決と新市場の創出と生活シーンでのサイネージ体験価値向上をミッションとする組織。相互接続ガイドラインを作成
- W3C (World Wide Web Consortium) : World Wide Webで使用される各種技術の標準化を推進する為に設立された非営利標準化団体。HTML5の作業グループがハイブリッドキャスト技術仕様を策定
- NexCDiフォーラム (映像配信高度化機構) : 高度映像技術及び高速大容量通信を活用した高度映像配信サービスの技術的な検証を加速し、本サービス開始と普及・展開を推進するため設立された機構
- GSC (世界電気通信標準化協調会議) : 電気通信標準化機関の代表者や専門家がICTの標準化活動等の情報交換とグローバルな標準化の促進に向けて標準化団体間の協調と連携の戦略を検討する会議

企画戦略委員	四方 清隆 (富士通)	登録委員数	7/6
リーダー・サブ	リーダ: 川森 雅仁 (慶應義塾大学)	図解	
活動の目的・意義	<p>持続可能な社会の発展のために健康の増進や高齢化への対応は、最も重要な要素のひとつです。そのためにICT技術の利活用は不可欠になりつつあり、相互運用性、社会での普及という観点からe-healthの標準化は、大きな意義を持っています。本SWGは、以上の背景から、最新のマルチメディアICT技術を用いた遠隔医療やICT健康保健の作業項目の標準化を行います。</p>		
活動する上での課題			
関連のSDGsゴール			
標準化方針			
国内外標準化団体動向	<p>ITU-T SG16 Q28では、日本から提案した脳情報プラットフォーム、超高精細内視鏡等の標準勧告化がなされた。また以前から続いているContinuaAlliance Guidelineの勧告化が継続されている。</p> <p>また新たにFG on AI for Healthが2018年度より開始され、その動向が注目される。ISOのHealth Informaticsと、Q28/16 はリエゾンを通じて情報共有しており、上記の活動とも関連する。</p>		

次ページ参照

# 脳情報プラットフォーム



重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本が主体的に取り組んでいる作業項目（H.MBI-PF（脳情報）、F.MCDC（飛行中及び飛行後の感染予防）、FSLD（セーフリスニング）、F.Med-UHD（8K内視鏡））の勧告化を推進する。</li> <li>ITU-T等のe-health関連勧告のダウンストリーム活動としてContinua Guidelineの勧告(H.810)のダウンストリームを行う</li> <li>外部団体と連携したe-health標準の普及促進活動を行う</li> </ul>			
主な活動項目	概況指標	2018年度目標（当初計画時）	2018年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	4件	<b>6件</b>	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16会合：7月頃	<b>ITU-T SG16会合（7月）</b>	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TSもしくはTRとして1件	0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	年度内に2回程度開催	<b>2019年度の実施に向けて継続検討</b>	
	記事投稿、講演会			

重点取り組み	・Safe Listening勧告の普及・医療用UHD応用関連勧告化の推進。脳情報プラットフォーム関連勧告化。 ・AIと保険医療標準化のワッチ			
主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	9件	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16会合：3月、10月		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	1件		
	TS/TR/SR	1件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数	1件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・Safe Listeningセミナー ・医療用UHD応用に関するセミナー ・脳情報関連セミナー ・AIと保険医療標準化セミナー		
	記事投稿、講演会	TTCレポート、ITUジャーナル等		

- ・Continua（Continua Design Guidelines）：Personal Connected Health Allianceによって発行されたガイドライン。
- ・Personal Connected Health Alliance（PCHAlliance）：様々な健康・医療システムやサービスをシームレスに扱えることを目標とし、より質の高い「予防的な健康管理」と「慢性疾患の管理」、そして「高齢者の自立支援」の実現を目指す非営利団体

企画戦略委員	四方 清隆 (富士通)	登録委員数	18/9
リーダー・サブ	リーダ：山本 高大 (NTT)	図解	
活動の目的・意義	<p>・2020年のオリパラに向けて、聴覚障害者や視覚障害者対策の必要性は、ひまに高まっており、バリアフリーな社会のために必要なアクセシビリティの標準化は重要である。緊急通報システムなどはその一例であり、一刻も早く世の中に広く普及させることが大切であり、アクセシビリティ関連の標準化の意義は大きい。</p>		
活動する上での課題	<p>・アクセシビリティに関する新たな検討項目の発掘とメンバーの拡充。</p>		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>Net119の共通電文仕様の維持管理</li> <li>リレーサービスに関する標準化検討。緊急通報への接続要件及びIFを検討し、標準化を推進する</li> <li>情報アクセシビリティ関連の標準化の検討</li> <li>アジア標準の策定可能性の検討</li> <li>視覚障害者向けの音声ナビゲーションF.921のダウンストリーム</li> <li>電話リレーサービスF.930のダウンストリーム</li> <li>4月のWSIS(世界情報社会サミット)の結果を受けてWebを使った電話リレーサービスの参照モデルの提案</li> </ul>		
国内外標準化団体動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>WHOや世界ろうあ者連盟 (WFD) などにおいて、健康で安心できる社会をICTによって支えるための標準化に取り組んでいる。また、来る2020年のオリパラに向けて、さまざまな施策が注目されている。</li> </ul>		

次ページ参照

- ・Net119：マルチメディア緊急通報システムで、会話が不自由な聴覚・言語機能障害者が、スマートフォン等の携帯端末を利用し、消防本部へ音声によらない通報を行えるシステム
- ・WSIS：World Summit on the Information Society ITU主導のもと、各国首脳レベルで情報社会に関する共通ビジョンの確立を図るための具体的な方策を検討するSummit



重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年度策定した国内標準(Net119の共通電文仕様)の維持管理。</li> <li>リレーサービスに関する標準化検討などの新規標準化課題の抽出と検討グループの立ち上げ。リレーサービス・コールセンタ等におけるWebRTC等による動画通信の検討、多言語化検討を行う。緊急通報への接続要件・I/Fを検討し、標準化を推進する。</li> <li>情報アクセシビリティ関連の標準化の検討。IPTVにおけるサービスアクセシビリティ実現の検討、バリアフリー施設・サービス等への情報アクセシビリティ実現の検討などを行い、標準化を推進する。</li> <li>アジア標準の策定可能性の検討</li> <li>視覚障害者向けの音声ナビゲーションシステムF.921のダウンストリームの検討を行う。</li> </ul>			
--------	--	--	--	--

主な活動項目	概況指標	2018年度目標（当初計画時）	2018年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	3件	<b>0件</b>	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16会合（7月ごろ）	<b>ITU-T SG16会合（7月） Net119の相互接続試験の場所としてTTCの 会議室を提供（2月20日に実施）</b>	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	予定なし	0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	年度内に1度開催	<b>2/18に「SDGs・アクセシビリティセミナー：放 送・通信における情報アクセシビリティの向上」を 開催（84名参加）</b>	
	記事投稿、講演会			

重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Net119のサービス普及を側面からサポートする（相互接続試験の場所の提供など）</li> <li>・視覚障害者向けの音声ナビゲーションF.921のダウンストリーム</li> </ul>			
主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	-	
	外部会合への 参加・連携状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITU-T SG16会合（3月、10月）</li> <li>・IPTVアクセシビリティコンソーシアムとの連携</li> </ul>		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数	1件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度内にセミナーを1回開催 （電話リレーサービスの勉強会なども検討）</li> </ul>		
	記事投稿、講演会			

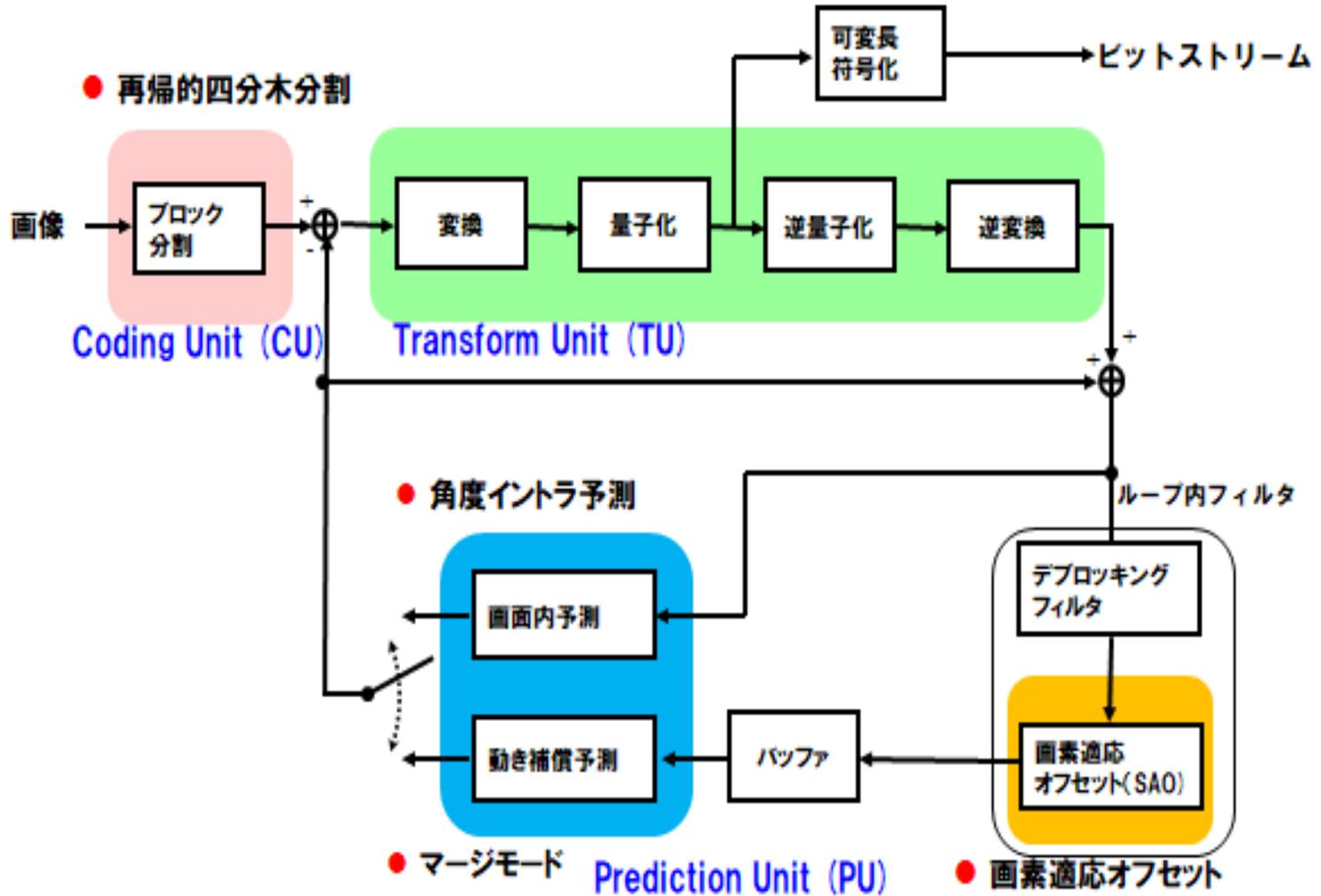
・IPTVアクセシビリティコンソーシアム：IPTVのアクセシビリティを向上するための規格化に向けた技術的課題を検討し、国内・国際標準化によって、アクセシビリティサービスの発展への寄与を目指す団体

企画戦略委員	四方 清隆(富士通)	登録委員数	13/8
リーダー・サブ	リーダー:野澤 善明(NEC)	図解	
活動の目的・意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>高音質音声、高精細動画像などを提供するためのメディア符号化技術や、FAXなどを含むマルチメディア通信の重要性は益々高まっている。なお、画像符号化に関しては、次世代の符号化の検討もスタートしており、さらに重要度は高まると考えられる。</li> <li>マルチメディア通信やIPTVなどで重要な音声符号化や画像符号化など、主にITU-T SG16の勧告の国内標準化策定を中心とした標準化活動をやHATS推進会議と連携した活動を行う。</li> </ul>	次ページ参照	
活動する上での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダウンストリームのタイミング</li> </ul> <p>ITU-Tの承認と正式発行に時間ずれがあり、その間に次の改定作業が始まりTTC標準化のタイミングが取りにくい。</p>		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITU-T SG16のメディア符号化に関する標準状況によりTTC標準化と改版・改定を進める。</li> <li>①映像符号化関連：ITU-T SG16 Q.6の動向把握を行い、JT-H265、JT-H265.1、JT-H265.2、JT-H264、JT-H264.1、JT-H264.2改定。</li> <li>②音声符号化関連：ITU-T SG16 Q.7の動向把握を行い、引き続き必要に応じて寄書提出等のフォローを実施。</li> <li>③マルチメディア通信システム関連：ITU-T SG16 Q.7とQ.11の動向把握を行い、TTC標準への反映。</li> <li>[Q.6 :映像符号化] H.VVC(Versatile video coding)、H.FVC(Future Video Coding)</li> <li>[Q.7: 音声/音響符号化、音声帯域モデム、FAX端末及びネットワークベース信号処理]</li> <li>[Q.11:マルチメディアシステム、端末、ゲートウェイ及び電子会議]</li> </ul>		
国内外標準化団体動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>HATS推進会議と連携</li> </ul> <p>TTC標準に基づいた相互接続試験の実施を行うなど、連携した活動を行っている。</p>		

・HATS推進会議（高度通信システム相互接続推進会議）：通信ネットワークに接続する高度な通信機器や情報通信システムの相互接続性を確認を目的とする会議体

# H265のエンコーダ構成図

●がH265を支える要素技術



<p>重点取り組み</p>	<p>ITU-Tの状況によりTTC標準化と改版・改定を進める。具体的には、以下の活動を計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>映像符号化関連： ITU-T SG16 Q.6の動向把握を行い、JT-H265、JT-H265.1、JT-H265.2、JT-H264、JT-H264.1、JT-H264.2の改版を検討する。</li> <li>音声符号化関連： ITU-T SG16 Q.7の動向把握を行い、引き続き必要に応じて寄書提出等のフォローを実施する。</li> <li>マルチメディア通信システム関連： ITU-T SG16 Q.7とQ.11の動向把握を行い、TTC標準への反映を行う。                  [Q.6 :映像符号化]                  [Q.7:音声/音響符号化、音声帯域モデム、FAX端末及びネットワークベース信号処理]                  [Q.11:マルチメディアシステム、端末、ゲートウェイ及び電子会議]</li> </ul>			
<p>主な活動項目</p>	<p>概況指標</p>	<p>2018年度目標（当初計画時）</p>	<p>2018年度実施状況</p>	<p>記事</p>
<p>① アップストリーム 他団体との連携</p>	<p>寄書数</p>	<p>－</p>	<p>－</p>	
	<p>外部会合への 参加・連携状況</p>	<p>HATSとの連携 HATSから新たな要望について意見交換を行う。</p>	<p><b>具体的な進捗なし</b></p>	
<p>② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート</p>	<p>JJ標準</p>			
	<p>TS/TR/SR</p>	<p>0件/0件/0件</p>	<p>0件/0件/0件</p>	
<p>③ ダウンストリーム</p>	<p>数</p>	<p>・JT-H.265(V5)(簡略標準) ・JT-H.265.1 (V3)、JT-H.265.2(V3) の 制定</p>	<p><b>2019年度改定に向けて継続検討</b></p>	
<p>④ プロモーション 普及推進</p>	<p>セミナー</p>	<p>2018年度中に1回開催</p>	<p><b>2019年度の実施に向けて継続検討</b></p>	
	<p>記事投稿、講演会</p>	<p>－</p>	<p><b>TTCLレポート7月号に標準制定の記事投稿</b></p>	

重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 将来のビデオ符号化の標準(H.VVC(Versatile video coding)、H.FVC(Future Video Coding) など)に着目。</li> <li>• 相互接続上の課題があれば、HATS推進会議と連携した取り組みを図る。</li> <li>• FAX端末の要望に基づく活動の推進。</li> </ul>			
主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	-	
	外部会合への 参加・連携状況	HATSとの連携		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	-		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件		
③ ダウンストリーム		ITU-T制定発行済み勧告の簡略標準化反映。 ・H.265 V5対応、・H.265.1V3対応、 ・H.265.2 V3対応 ・改版作業中の版数対応は制定時期を見極めて対応。 H.264V13、H.265V6等。		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	2019年度中に1回開催を検討		
	記事投稿、講演会	-		

# 中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

ILE-SWG

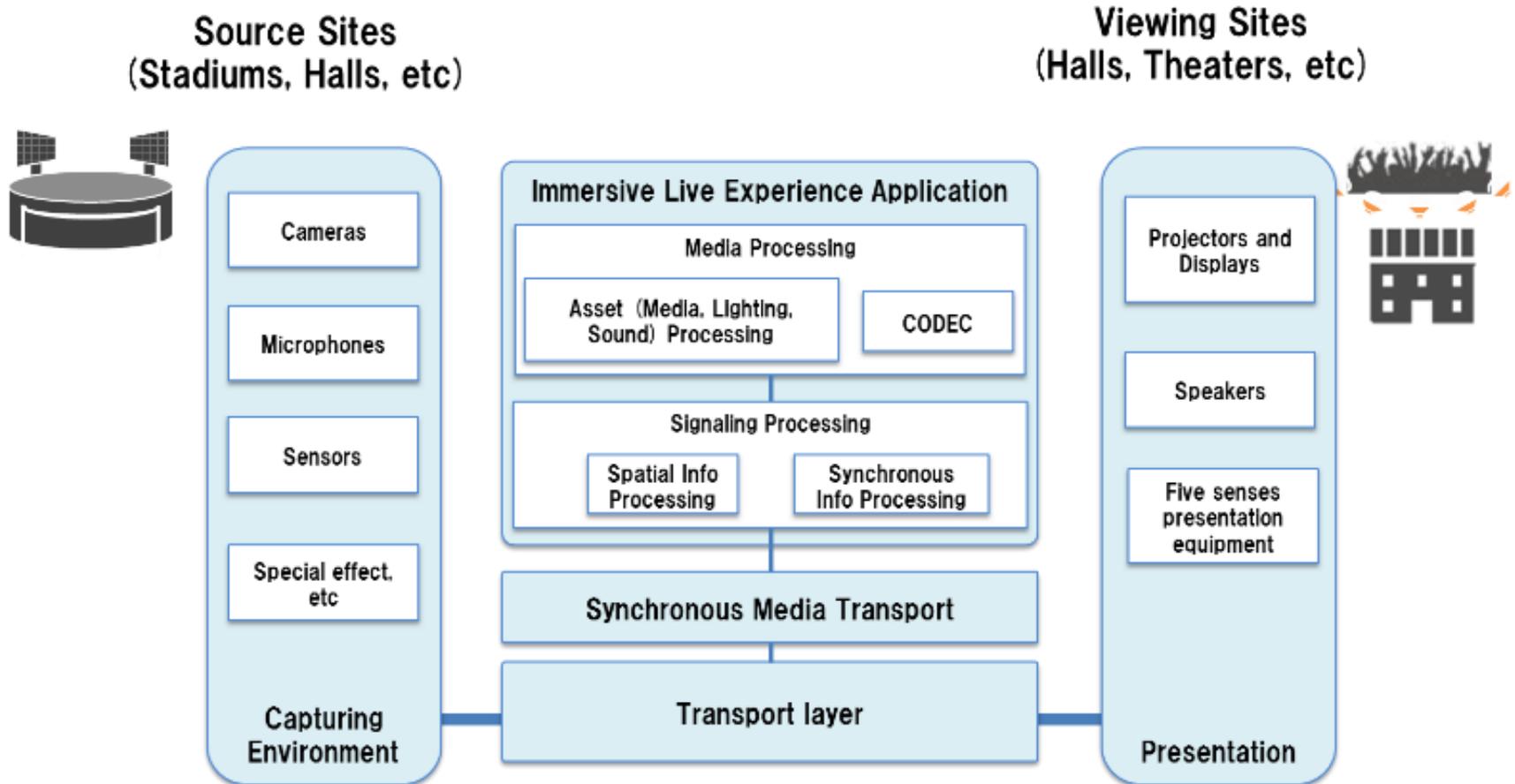
1/3

企画戦略委員	四方 清隆 (富士通)	登録委員数	13/7
リーダー・サブ	リーダ: 田中 清 (NTT)	図解	
活動の目的・意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>高精細映像、3D映像、多視点映像、立体音響等のメディア技術を更に発展させ、スポーツや音楽イベント等において、選手や出演者だけでなく観客の映像や音声をまるごと遠隔会場に伝送し、リアルタイムに会場と一体となって感動を体感する、イマーシブライブエクスペリエンス (Immersive Live Experience (略称:ILE) ,超高臨場感ライブ体験) 技術をグローバルに啓蒙、普及することを目的として、国際標準化を検討する。</li> </ul>		
活動する上での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>超高臨場感ライブ体験に関する技術動向を踏まえ、相互接続や技術・サービスの普及を目的とした標準化が必要とされている。</li> </ul>		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>ILEに関する国際標準の必要性を啓蒙すべく寄書提案を積極的に行い、作業項目や勧告草案の充実を図る。</li> <li>情報規格調査会 (MPEG関連) やNexCDiフォーラム等、他団体との標準化連携を進める。</li> </ul>		
国内外標準化団体動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>MPEGではMPEG-VRアドホックが形成されるとともに、MPEG-iとして Immersive Mediaの検討開始。MP20ワークショップも開催されている。</li> <li>DVBにおいてもV Rに関する標準化が進められており、V R技術レポートを発行。</li> <li>W3CでもWebVRワークショップ (2016年10月) が開催され、V Rに関する標準化を模索中。</li> </ul>		

次ページ参照

・情報規格調査会：一般社団法人 情報処理学会の下部組織。国際標準化機構(ISO)、国際電気標準会議(IEC)などの情報技術に関するデジュール標準である国際規格の審議およびこれに関する調査研究、国内規格の審議などを行い、情報処理および電子計算機に関する標準化に寄与することを目的とする組織

# 超高臨場感ライブ体験フレームワーク



重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>ILEに関する勧告の早期整備を進めるため、勧告草案の完成度を高め Consent する（サービスシナリオ：H.ILE-SS、要求条件：H.ILE-Req、フレームワーク：H.ILE-FW）。</li> <li>メンバー間でのILEに関する相互理解を深めるため、イマーシブサービスの事例紹介をSWGで継続的に実施する。</li> <li>情報規格調査会やNexCDiフォーラムとの合同会合やワークショップを開催し、国際標準化での連携を深める。</li> <li>ILE勧告の国内認知を高めるため、ITU-T勧告のダウンストリームを推進する。</li> </ul>
--------	---

主な活動項目	概況指標	2018年度目標（当初計画時）	2018年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	<b>4月の電子会合：3件 7月のITU-T SG16会合：4件</b>	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16会合：7月頃 ラポータ会合：2月頃	<b>ITU-T SG16会合（7月）</b>	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	予定なし	<b>0件</b>	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーとして、 ワークショップ開催を検討	<b>2019年度の実施に向けて継続検討</b>	
	記事投稿、講演会			

重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>ILEに関する勧告の早期整備を進めるため、基本勧告に続き、個別技術に関する勧告化提案を推進する。</li> <li>メンバ間でのILEに関する相互理解を深めるため、イマーシブサービスの事例紹介をSWGで継続的に実施する。</li> <li>情報規格調査会やNexCDiフォーラムとの合同会合やワークショップを開催し、国際標準化での連携を深める。</li> <li>ILE勧告の国内認知を高めるため、ITU-T勧告のダウンストリームを推進する。</li> </ul>			
主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG16：3月、10月頃		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	1件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する		
	記事投稿、講演会			